

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

APU・SEUグローバル協働教育プログラム-入学前教育から大学教養・専門教育まで

【プログラムの目的・養成する人材像】

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)と米国のセント・エドワーズ大学(以下、SEU)と協働で、入学前から大学教養・専門教育までの学位取得プロセスにおいて国際水準の質の高い教育プログラムを構築し、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力を持ったグローバル人材の育成を目指す。

【構想の概要】

APU・SEU生は各大学で受ける初年次教育をベースに、「積み上げ式協働教養プログラム」もしくは「協働ダブル・ディグリー・プログラム」に参加、それぞれの大学において留学を行う。APU学生は入学前留学プログラムも実施する。全てのプログラムにおいてラーニングゴールにもとづくアウトカム・アセスメントを実施し、学生の学びと成長に寄与する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組・プログラム実施状況・学生モビリティ

(1)入学前留学プログラム(3月実施)

APU入学予定者に対し、入学直前にSEUへ2週間の短期留学をするプログラム。SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業の受講、SEUの学生バディとの交流、フィールドワーク等を通じ、国際的視点を意識した上で、入学後の学習計画を立てていくことを目的としている。平成23年には8名、平成24年には23名、平成25年には22名が参加。

(2)積み上げ式協働教養プログラム

Business In Japan プログラム - BIJ (3月実施) 国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶプログラム約1週間のプログラム。APU教員による講義、日本企業・在日米国企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深めた。平成23年には16名、平成24年には20名、平成25年には16名が参加。

ゲートウェイ・プログラム (6・7月実施) SEU学生がAPUに2ヶ月滞在し、日本語と日本文化について学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスやAPU学生との共同開講科目を受講するほか、フィールドトリップや農泊、APU学生バディとの交流を通じ、様々な側面から日本文化を体験し、生きた日本語を学ぶ。平成24年には10名、平成25年は6名、平成26年には8名が参加。平成25年度より、ゲートウェイ期間中に、APU・SEU両教員による協働開講科目を実施し、日米の学生が共に学んでいる。

グローバル・コミュニケーション・プログラム - GCP (6・7月実施) APU学生がSEUに2ヶ月滞在、SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修、英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、グローバル人材としてのコミュニケーション能力を身につけることを目的としたプログラム。平成24年は13名、平成25年は28名、平成26年には30名が参加。

Southeast Asian Studies Program - SEAS (8月実施) GCPでSEUに留学したAPU学生、BIJ やゲートウェイ・プログラムにてAPUに留学したSEU学生、韓国カトリック大学の学生が、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに、全員の学生にとって異文化の地となるタイ・マレーシアにて2週間、協働学習を行うことにより、異文化理解力・コミュニケーション能力を更に深めることを目的としたプログラム。平成24年は25名、平成25年は20名、平成26年には23名が参加予定。

(3)協働ダブル・ディグリー・プログラム

APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。平成25年8月より2名のAPU学生がSEUへ2年間留学、平成26年8月より1名が留学予定。SEU学生のAPU留学は平成27年度より開始予定。

(4)キャップ・ストーン科目

上記のプログラムによって得られた多様で広範な知識を統合し、専門教育に繋げる科目を学生の学びの段階に応じて提供する。平成24・25年はSoutheast Asian Studies Programに統合する形で実施し、平成26年度も継続して実施予定。

上記の取組を通じて、教養教育、専門教育、留学等によるアクティブ・ラーニングの体系化を図り、国際水準の成績評価、単位認定制度、ラーニング・アグリメントを整備し、国際教育のモデルを構築する。

■ 留学を促進するための環境整備

事前・事後授業・留学アドバイジング・e-portfolio

参加プログラムに応じた事前・事後授業、個別アドバイジング、e-portfolioの利用を通じ、学生の留学における目標の明確化、留学中の日々の達成度の検証、留学成果を将来の目標へ活かすための方向付けを丁寧に行っている。e-portfolioの利用は、学生同士が励ましあうLearning Community醸成の場にもなり、3ヶ月・13名で200を超える励まし合いのコメントがあったプログラムもあった。また、プログラムの枠を超えて先輩学生が後輩学生と交流できる場を設け、留学経験を共有し、将来への学びへ結びつけるためのモチベーション維持・向上を図る試みも行っている。平成25年度より、前年度GCP参加学生がピア・アドバイザーとしてe-portfolio上でのフィードバックを行い、平成26年度も同様の取組みおよび英語力向上のワークショップを企画運営している。

■ プログラムの効果

英語力の伸長・・・APUの学生は大きな英語能力の伸長を感じており、GCPに参加した学生のTOEFL-ITPでは平均23.3点の伸長、TOEIC-IPでは平均95.6点の伸長が見られた。

異文化理解力・グローバルな視点の養成・・・APU・SEUの学生共に、留学を通して異文化理解力が高まったと全員が回答しており、帰国後に学生バディとして活躍する学生も増えている。GCPに参加した学生は進学・就職希望を除く全員が交換留学や他の留学プログラムに参加、就職希望者は世界に展開する企業に内定を得た。

APU・SEUのパートナーシップの強化・・・プログラムの内容の充実化を目指し、学長から教員、職員レベルまで積極的に両校で意見交換をし、プログラム開発を行っており、パートナーシップは確実に強まっている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

本プログラムのホームページやリーフレットを作成広く公開しているほか、国外の研修会や国際会議等において発表を行った。平成25年6月に外部評価委員を招いて中間報告会を開催し(一般公開)、平成26年以降は海外での発表も行っていく予定。



SEASプログラム
タイ・マレーシアで協働学習

交流実績数	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	49	64	70	70
学生の受入	16	40	28	35	35

(<延べ人数。H23-H25は実績、H26以降は予定数)